

プロ野球選手を9年支えた長野の治療院院長

経験者トレーナー 地域に還元を



監修した清水さんと完成したサポーター。手に持つスケッチブックにアイデアを書きためていた

長野市稲里町の清水治療院院長の清水克彦さん(46)が、名古屋市の企業が開発し3月中旬に発売した「薄型アーピング膝サポーター」を監修した。清水さんは東京ヤクルトスワローズのトレーナーを9年間務めた後、2009年に同治療院を始めた。商品開発に携わるのは初めてで「これまでの経験が多くの人の助けになるように」と話している。

清水さんは坂城町出身。佐久高校(佐久市・現佐久長聖高校)で野球に打ち込んだ。トレーナーを志して

神奈川県立の専門学校で学び、卒業後に同県の総合病院に約1年間勤務。トレーナーを募集していたヤクルトに採用された。その後、学んできたことを地元のために生かそうと治療院を開院。口コミで評判が広がり、遠方からの来院者もいる人気の治療

院となった。

サポーターを発売したのは食品や雑貨を企画販売している名古屋市の上場企業アイケイ。商品監修者を探していた担当者が、「長野県の治療院にカリスマ先生がいる」と知人から清水さんのことを聞き、昨年3月に依頼した。同社が考えていた商品コンセプトは、ズボンなどをはいても違和感が

膝の痛み予防 サポーターを監修

ないほど薄く、それでも膝をサポートする機能性があること。50以上の男女の使用を想定し、膝の痛みを予防する狙い。清水さんによると、年齢を重ねて感じるようになる膝痛の原因の多くは変形性膝関節症に起因する。歩き方や姿勢の長年の癖により、膝の軟骨がすり減るなどとして引き起こされる。

完成したサポーターは、伸縮性のある厚さ0.5ミリ以下の素材を使用。膝のお皿を囲うように「O」の形と、上部に「W」、下部に「M」の形にシリコンを配置した。シリコンがある部分は生地が伸縮せずに引き締められる。スポーツ選手がするアーピングを応用し、膝のお皿の位置を固定して負担の少ない動きをサポートするよう工夫した。「WOMライン構造」と名付けて効果をPRしている。

サイズはMとLとLLと3Lの2種類。ともに2枚組みは税込み3278円、4枚組みは同5478円。男女兼用。アイケイお客様センター(☎0120・55・28820)で平日午前9時〜午後5時に注文を受け付けている。